

作成日：2025年12月4日

版数：第1.0版

当院で手術を受けられた方およびそのご家族の方へ

「A 診療科手術における術中感染対策実施状況の実態調査
—B 大学病院における観察研究—」へのご協力をお願い

研究機関名およびその長の氏名：岡山大学病院 前田 嘉信

研究責任者：岡山大学病院 感染症内科 准教授 萩谷 英大

1) 研究の背景および目的

手術では、ごくまれに傷口から細菌が入り込む「手術部位感染（SSI）」が発生することがあります。SSI は治療期間の延長や追加の処置が必要となることがあり、可能な限り防ぐことが重要です。SSI を予防するためには、手術前後だけでなく、手術中においても、抗菌薬を適切な時間に使用することや、皮膚の十分な消毒、スタッフの手袋やマスクなどの正しい使用、手術室内の換気管理など、複数の感染対策を確実に実施する必要があります。

今回の研究では、当院 A 診療科で手術を受けられた患者さんの診療記録をもとに、これらの感染対策が適切に行われていたかを確認し、今後のより安全な医療提供に役立てることを目的としています。この研究では、すでに記録されている情報のみを利用し、患者さんに新たな検査や負担が生じることはありません。

2) 研究対象者

2025年7月14日～2025年8月10日の間に、岡山大学病院で手術を受けられた30名の患者さんを対象とします。

3) 研究期間

研究機関の長の許可日～2026年3月31日

情報の利用開始予定日：研究機関の長の許可日から1週間後

4) 研究方法

当院で手術を受けられた方を対象に、手術中の感染予防対策がどの程度実施されていたかについて、術中の状況を観察・評価しました。

具体的には、抗菌薬が切開前に適切に投与されていたか、皮膚消毒が十分に行われていたか、手袋の交換が必要な場面で適切に実施されていたかなどの項目を確認しました。

これらの調査結果を取りまとめ、手術をより安全に行うために改善可能な点がないかを検討します。

5) 使用する情報

SSI 予防プロセスに関連する項目を研究者らが「手術医療の実践ガイドライン (改訂第三版)」および WHO の「Global Guidelines for the Prevention of Surgical Site Infection」に基づいて独自に作成したチェックリストを使用します。観察項目には以下を含む：

1. 抗菌薬投与開始時刻、追加投与の有無・時刻、薬剤名
2. 手術部位消毒薬の種類、消毒方法、皮膚乾燥時間
3. 個人防護具（マスク、ゴーグル、ガウン等）着用状況
4. 手術室換気システムの状況（吸気口、排気口周辺の管理）
5. 術者の手の状態（傷、爪、装飾）
6. 手袋交換の実施状況とタイミング
7. 創部洗浄の実施の有無

各症例に対して、手術に立ち会う看護師が術中の感染対策実施状況をリアルタイムで観察・記録をしています。記録は紙ベースまたは電子媒体を使用しているため、後日 Excel に転記・集計します。

情報はすべて加工し、個人が特定されることはありません。

6) 試料・情報の保存

この研究に使用した情報は、研究終了後 5 年間、岡山大学病院（感染制御部・感染対策室）内で保管します。電子データはパスワードで守られたコンピューターに保存し、紙の資料は鍵のかかる場所に保管します。

保存期間終了後は、安全に廃棄します。

7) 二次利用

この研究で得られた情報を、将来別の研究に使用する予定はありません。

8) 研究資金と利益相反

この研究は特別な資金提供を受けず、研究費を必要としないため、特定の研究資金は利用しません。

また、研究責任者や研究分担者が、この研究に関して利益を得る立場にある企業などとの関係を持っていることもありません。

9) 研究計画書および個人情報の開示

ご希望があれば、個人が特定できない範囲で研究に関する資料をご覧いただけます。

この研究では、個人が特定できる形でデータが外部に出ることはありません。

また、学会や論文などで発表する際は、個人が特定されることはありませんのでご安心ください。

なお、研究のためにあなたの情報を利用されることにご了承いただけない場合は、下記までお申し出ください。ただし、すでに解析が終わっていて個人を特定できない場合は削除ができないことがありますので、ご了承ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・研究への利用を拒否する場合の連絡先>

岡山大学病院 看護部

氏名：藤田 泰嗣（副看護師長）

電話：086-235-7906（平日：8時30分～17時15分）